

平成20年7月17日発行(毎月2回第1・第3木曜発行)  
第14巻第14号通算264号 平成7年7月12日第三種郵便物認可

ワールドサッカーダイジェスト  
Just have fun with Football

# WORLD SOCCER DIGEST

【巻頭企画】  
出場16か国の  
通信簿

【EURO戦記】  
CRISTIANO RONALDO  
クリスチアーノ・ロナウド(ポルトガル代表)

Slaven BILIC  
スラベン・ビリッチ(クロアチア代表監督)

SERGIO RAMOS  
セルヒオ・ラモス(スペイン代表)

【現役選手による大会レビュー】

EDUARDO da Silva  
エドゥアルド・ダ・シルバ  
(アーセナル/クロアチア代表)

Lionel MESSI  
リオネル・メッシ  
(バルセロナ/アルゼンチン代表)

Sergio AGÜERO  
セルヒオ・アグエロ  
(アトレティコ・マドリー/アルゼンチン代表)

Tsuneyasu MIYAMOTO  
宮本恒雄(ザルツブルク/元日本代表)

エキスパートによる  
EURO2008  
タレントチェック

Group A  
VITOR BAIA  
ヴィトール・バイア  
(元ポルトガル代表/現FCポルト・ディレクター)

Group B  
Guido BUCHWALD  
ギド・ブッフバルト  
(元ドイツ代表/元海和レッドタイヤモンズ監督)

Group C  
Carlo ANCELOTTI  
カルロ・アンチェロッティ  
(元イタリア代表/現ACミラン監督)

Group D  
Vicente DEL BOSQUE  
ビセンテ・デル・ボスケ  
(元スペイン代表/元レアル・マドリー監督)

# EURO2008

## 醒めやらぬ、熱狂——

別冊付録  
ジャンボホスター  
EURO2008  
SPECIAL  
STAR PLAYER  
&  
ALL TEAMS

付録とも  
定価 570円  
日本スポーツ企画出版





先制ゴールは33分、シャビのパスに抜け出したラームが、ラームとGKレマンの横ミスを突き、右足で流し込

これまで見てきた光景とは、すべてが逆だった。1-0でしぶとく逃げ切るのは、つねに運しきドイツだった。先制すれば、最後まで集中力を切らさず守り抜き、時折カウンターを繰り出しては相手を焦らし、苛立たせるのが、試合巧者ドイツのやり方だった。勝者として高々とカップを掲げるのは、いつも決まってドイツであり、そして、敗者となってピッチに崩れ落ちるのは、つねにスペインだった。

だがこの日、歴史は変わった——。ドイツの白とスペインの赤に染め分けられたスタンドは、その7割方を占めた「白組」の圧勝だった。それもそうだろう。ここオーストリアはドイツのお隣の国なのだから。国歌の歌声も「白組」が圧倒していた。それもそうだろう。なにしろスペインの国歌には、歌詞がないのだから。

「白組応援団」の勢いに、あるいは香まれたのだろうか。立ち上がり、24年ぶりにファイナルの舞台にたどり着いた「赤組」は、明らかに浮き足立って

いた。3分、S・ラモスとブジヨールがルーズボールをお見合いし、これをクロウゼにかっさらわれる。緊張感が、記者席まで伝わってきた。

スペインの攻撃力をまったく恐れる気配のなかったドイツは、最終ラインを高めめに設定し、コンパクトな3ラインの中に敵を押し込める。そして、怪我で出場を危ぶまれたバラックを中心に、主にスペインの右サイドに標的を絞り、攻勢をかけていくのだ。バラック、ポドルスキ、クロウゼ、シュバインシュタイガーが激しくポジションを入れ替え、ここにオーバーラップしたラームが絡む攻撃は、スペインに守りの基準点を作らせなかった。

それでも、スペインが正気を取り戻すまで、さほど時間はかからなかった。時間の経過とともにシャビ、そしてビジャの故障欠場でスタメンに抜擢されたセスクを起点に、徐々にボールの回りがスムーズになる。14分、シャビのスルーパスを受けたイニエスタのシュートが、ドイツDFに当たってあわやのシーンを作れば、23分にはS・ラモスが右から上げたクロスで、F・トールレスが強引に頭で叩く。メルテザッカーをなぎ倒して放たれたこのヘディングシュートは、惜しくも左のポストに撞かれるが、その10分後だった。F・トールレスが、今度こそ均衡を破る。

シャビからF・トールレスへ——。これまで繋がりがそうで繋がらなかったホットラインが、ここで繋がった。スルーパスに抜け出したF・トールレスが、一度はラームに前を取られながら、ラームとGKレマンの連携ミスを突いて右足でふわりと浮かしたボールが、ゆっくりとネットに吸い込まれたのだ。ドイツも悪いサッカーをしていたわけではない。だが、ここぞという局面でプレーに精度を欠き、またミスが多さも目に付いた。クラニーニを投入した58分以降、ベースを掴んだ時間帯もあったが、60分、バラックが放ったポ



ビジャの欠場により、ギリシャ戦以来二度目の先発出場を果たしたセスク。ポゼッション・フットボールの中枢を担った

# EURO2008 出場16か国の「通信簿」

総合  
評価



# SPAIN

スペイン

photographs by Getty Images/AFLO, Alberto LINDEA, Akira SATO

S: 特別表彰に値します A: 大変よくできました B: よくできました  
C: まずまずです D: 期待外れです E: 失望です

## 基本フォーメーション



## EURO2008の結果



大会開幕時点でのランキング

FIFA ランク 2位 / 出場16か国中 (総合ランクでは4位)

FIFA オッズ 2位 / 出場16か国中 (オッズは5割)

※FIFA ランクは6月4日発表分。優勝オッズはイギリスの「ウィリアム・ヒル」が発表。

RESULTS GROUP D 1位 6勝0分け0敗 / 12得点・3失点

試合結果 / 対戦相手	得点者
① ④-1 ロシア	ビジャ, セナ
② ②-1 スウェーデン	F.トーレス, ビジャ
③ ②-1 ギリシャ	デ・ラ・レッド, ギイサ
④ ④-0 イタリア	
⑤ ④-2	
⑥ ③-0 ロシア	シャビ, ギイサ, シルバ
⑦ ①-0 ドイツ	F.トーレス

DL=グループリーグ GF=準々決勝 G=準決勝 F=決勝  
失点数は「主力17選手の通信簿」の出場記録に対応。



## 攻撃 攻守のメカニズム

**純粋なウイングがメンバー選考時から不在で、そのうえ、スタート時は一応、右にイニエスタ、左にシルバとしていたが、ともに内に絞る傾向が顕著。今大会は両サイドバックの攻撃参加も控えめで、実質、サイドからの崩しは、機動力とスピードを備えた2トップが担っていたと言っている。中盤で手数をかけず、カウンターという新境地を開拓したが、ビジャが故障した準決勝のロシア戦の途中からは、従来のポゼッション・サッカーも披露した。**

**セットプレーやハイクロスの対応に課題を残しながら、守備ブロックが大崩れしなかったのは、GKカシージャス、CBプジョール、ボランチのセナと、センターラインが強固だったことに加え、本来は攻撃的なS・ラモスとカプデピラの両サイドバックが、本業の守備に比重を置いたから。攻撃面ではあまり目立たなかったS・ラモスだが、その跳躍力で最終ラインの高さ不足を補った。さらに2トップの献身的なプレスが、守りの的を絞りやすくもしていた。**

## リアリストティックに変貌を遂げて、呪縛を解き放つ

それまでの4-1-4-1システムから中盤を一枚(セスク)削り、ビジャとF・トーレスの2トップ(4-4-2)に転換を図ったアラゴネス監督の英断が、スペインを成功に導いた、あるいはすべてと言っても過言ではない。シャビ、イニエスタ、シルバ、セスクの「クアトロ・フゴネス」(4人の創造者)を軸としたポゼッション・フットボールは、たしかに魅力的ではあったが、フィニッシュの局面に課題を残し、カウンターの餌食となる危険性も、同時に秘めていた。だが、2トップとし、彼らのスピードをフルに活かした

サッカーで、初戦のロシア戦に大勝したチームは、瞬く間にポゼッションとは対極に位置する、カウンターという新たな武器を手に入れてしまうのだ。これは従来と比べてはるかに効率的で、トーナメント向けのスタイルと言えた。流れるようなパスワークでいくら敵を自陣に釘付けにしても、ゴールを奪えなければ意味がない。それが当初から意図したものであったかは定かではないが、創造性の香りも残しつつ、リアリストティックに生まれ変わったからこそ、スペインはベスト8の呪縛を解き放ち、ヨーロッパ王者となりえたのだ。

## 今大会の誤算

**ポゼッション型にも、カウンター型にも自在にシフトする柔軟なスタイルを身に付け、なおかつ満点の結果も手に入れたのだ。嬉しい誤算はあっても、悪い意味でのそれは見当たらない。重箱の隅を突いてそれを探そうなら、リスクを冒して**

**でも、観る者すべてを魅了するサッカーにトライできなかった点となるだろうか。あとは予想を上回る好結果に、大会後の辞任を表明していたアラゴネス監督の留任説が囁かれはじめたこと。今後、協会内部の混乱が白日の下に晒されるかもしれない。**

## 2010年ワールドカップに向けての収穫

**×** ジャートーナメント初出場となるシルバが堂々の主役を演じ、またグループリーグ第3戦を消化試合にしたことで、デ・ラ・レッド、S・ガルシア、F・ナバーロなどの「初招集組」に、かけがえのない経験を積ませることができた。なかでもカソルラは、今後のスペイン代表にとって貴重な切り札となりうる実力を証明している。ただ最大の収穫は、選手たちが大きな自信を得たことと、代表チームの周囲にあった雑音を一掃できたことだろう。



## 主力17選手の「通信簿」

POS	評価	背番号・名前	出場記録						試合・得点	イ評
			①	②	③	④	⑤	⑥		
GK	S	① カシージャス	■	■	■	■	■	■	5試合・-	ハイライトはイタリア戦。PKを2本ストップし勝利に貢献
	B	② アルビオル	■	■	■	■	■	■	2試合・-	第2戦で途中出場。負傷したプジョールの穴を無難に埋めた
DF	A	④ マルチーナ	■	■	■	■	■	■	5試合・-	持ち前のハードマークで、最終ラインに安定感をもたらした
	S	⑤ プジョール	■	■	■	■	■	■	5試合・-	出場した全試合で完璧なプレーを披露。最近の批評家を喜ば
	B	⑧ カプデピラ	■	■	■	■	■	■	5試合・-	攻撃参加は控え目だったが、鋭いパスでカウンターの起点に
	B	⑨ S・ラモス	■	■	■	■	■	■	5試合・-	大会序盤は守備に専念も、準決勝のロシア戦で「らしき」復帰
	A	⑩ イニエスタ	■	■	■	■	■	■	6試合・-	中盤を幅広く動き回りポゼッション・フットボールを支えた
MF	A	⑪ シャビ	■	■	■	■	■	■	5試合・1得点	ベストの状態ではなかったが得意の高速パスで攻撃にリズム
	A	⑫ セスク	■	■	■	■	■	■	6試合・1得点	先発を外れても存在感は不変。限られた時間で結果を出した
	B	⑬ カソルラ	■	■	■	■	■	■	5試合・-	初の大舞台で堂々の働き。攻撃に絶妙なアクセントを加えた
	A	⑭ シャビ・アロンソ	■	■	■	■	■	■	4試合・-	視野の広さはチーム随一。中距離パスでカウンターの起点に
	S	⑮ セナ	■	■	■	■	■	■	5試合・-	頑固な守備で、オフensiveな中盤に安定感をもたらした
	S	⑯ シルバ	■	■	■	■	■	■	5試合・1得点	得意のドリブルを駆使し、崩しの局面で決定的な仕事を遂行
	B	⑰ デ・ラ・レッド	■	■	■	■	■	■	1試合・1得点	A代表初の公式戦となったギリシャ戦で同点弾を叩き込んだ
FW	S	⑱ ビジャ	■	■	■	■	■	■	4試合・4得点	緒戦でハットトリック。負傷した準決勝まで主役の座に君臨
	A	⑲ F・トーレス	■	■	■	■	■	■	5試合・2得点	ビジャ不在のファイナルで決勝点。エースの重責を果たした
	A	⑳ ギイサ	■	■	■	■	■	■	4試合・2得点	リーグ得点王にふさわしい活躍。イタリア戦ではPKを先発

その他の選手: GK③パロップ(0試合・-)、④レイナ(1試合・-)、DF⑦F・ナバーロ(1試合・-)、⑧アルベロア(1試合・-)、⑩ファビオ(1試合・-)、FW⑥S・ガルシア(1試合・-)

■=先発出場 ■=途中出場 出場記録の失数字は「RESULTS」に対応。